

地域に学ぶ 地域で学ぶ

「朝日のびのび教育賞」に6団体

朝日新聞社の第15回「朝日のびのび教育賞」(ベルマーク教育助成財団後援)に6団体(うち「ベルマーク賞」と「まなあさ賞」に1団体ずつ)が決まった。全国から応募のあった158団体の中から、朝日新聞記者による現地調査と、社内審査で選考した。新設のまなあさ賞はIT(情報技術)を活用した取り組みを対象とした。各受賞団体には正賞の盾と活動奨励金50万円が贈られる(ベルマーク賞については、ベルマーク教育助成財団から50万円を贈呈)。

スタッフの指導のもと、修理に挑戦する児童―福岡県糸島市立引津小学校



物を愛する心 修理で育む

おもちゃ病院伊都国 (福岡)

黄色いエプロンとバンダナを身につけた「ボランティア団体おもちゃ病院伊都国」のメンバー約10人が昨年11月、福岡県糸島市立引津小学校にやってきた。4年生向けの「おもちゃ修理体験学習」のためだ。

大賀ももかさん(10)は、音が出なくなつた電話の修理に挑戦した。よく遊んだ大切なおもちゃだ。スタッフの指導を受けながら取りかかる。慣れないドライバ―を手に分解すると、スイッチの接触不良が原因と分かった。部品を交換すると、再び音が出るようになった。大賀さんは「妹と弟にもこれで遊んでほしいから、うれしい」と喜んだ。

おもちゃ病院伊都国は2007年10月に発足。メンバーは定年退職した元エンジニアら25人。年30回ほど、公民館などで壊れたおもちゃを

無償修理している。08年からは学校を訪れ、子どもたちと一緒におもちゃを直す活動も始めた。ものを大切にしたいとの思いからだ。

準備は念入りだ。開催3週間前に学校に足を運び、修理することごみが減り、エコにつながる」と説明。電車のおもちゃなどを教材に、動く仕組みや修理の手順も教える。

引津小の戸高健校長(59)は「電気の流れ方など授業で学んだことを実感できる。子どもが『こういうことだったのか』と気付く体験は大事」と話す。

一度修理を体験した子が、自分の力で別のおもちゃを直そうとして失敗し、質問に来ることがある。代表の波多江保彦さん(75)は「子どもの興味の幅を広げ、意欲を伸ばすことにつながるよう、うれしい」と顔をほころばせる。

(山下知子)